

令和 5 年 7 月 31 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02334

研究課題名(和文) 室町～戦国時代における日本刀の贈答と在銘刀剣の美術的評価に関する基礎的研究

研究課題名(英文) A Fundamental Study on the Gift of Japanese Swords and the Artistic Evaluation of Zaimoku Swords in the Muromachi - Sengoku Period

研究代表者

吉原 弘道 (YOSHIHARA, Hiromichi)

九州産業大学・基礎教育センター・教授

研究者番号：50552212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：文献史料(古文書・古記録)と中世刀剣書を中心として、室町～戦国時代に贈答品として用いられた日本刀について分析した。その結果、室町～戦国時代の正式な贈答では、主として平安～南北朝時代の刀工が作った製作当時から手を加えられていない生ぶ茎の在銘刀剣が用いられたことを明確にすることができた。また、南北朝～室町時代の刀鍛冶について、中世刀剣書及び現存する日本刀(在銘刀剣)から南北朝～室町時代の刀鍛冶データベースを構築した。さらに、構築している平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースと統合して「中世刀鍛冶の総合データベース」へと進化させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本刀研究の方法には、現物(現存する日本刀)からのアプローチ、文書(刀剣書・古文書・古記録)からのアプローチが存在する。従来の研究では、現存する日本刀からのアプローチが中心であったため、刀剣書・古文書・古記録などは補助的なものとしてしか取り扱われてこなかった。本研究では、中世刀剣書を史料学的に分析して系統・成立年代などを検討した上で、刀剣書・古文書・古記録などを中核に据えて現存する日本刀(銘文)などの情報も取り入れて分析した。中世刀剣書の位置づけを明確化したことにより、日本刀研究における新たなアプローチ方法を確立することができた。

研究成果の概要(英文)：We analyzed Japanese swords used as gifts in the Muromachi - Sengoku periods, focusing on documentary sources (ancient documents and ancient records) and medieval sword books. As a result, we were able to clarify that formal gifts during the Muromachi - Sengoku periods were mainly unmodified swords with original stems made by swordsmiths of the Heian - Nanbokucho periods. We have also constructed a database of swordsmiths of the Nanbokucho - Muromachi period based on medieval sword books and extant Japanese swords (sword inscribed with the name of the swordsmith). Furthermore, the database was integrated with the existing database of swordsmiths from the late Heian to Kamakura periods to create a "comprehensive database of medieval swordsmiths".

研究分野：美術史

キーワード：日本刀 刀剣 刀剣書 刀鍛冶 贈答

1. 研究開始当初の背景

基盤研究(C)「平安～鎌倉時代における刀鍛冶の基礎的研究 刀鍛冶データベースの構築」の研究代表者として、平安時代後期～鎌倉時代の日本刀について中世刀剣書及び現存する日本刀(在銘刀剣)から平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶のデータベース(刀鍛冶名・作刀時期・地域・流派)を構築した。この研究過程で、室町～戦国時代の古文書・古記録に日本刀の贈答に関する記事が多数存在することを確認した。そこで日本刀の贈答に関する古文書・古記録を収集・整理して分析すれば、室町～戦国時代における日本刀の贈答の実態と製作者である刀鍛冶の評価を解明できると考えた。さらに、贈答に用いられた日本刀の中には南北朝時代の刀鍛冶が製作したものが含まれ、中世刀剣書にも南北朝～室町時代の刀鍛冶に関する記事が含まれていた。そこで南北朝～室町時代の刀鍛冶についても、中世刀剣書及び現存する日本刀(在銘刀剣)を中心とした刀鍛冶データベースを構築し、構築している平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースと統合して中世刀鍛冶の総合データベースへと進化させる必要性があると考えた。

2. 研究の目的

中世社会における日本刀の贈答の実態について、室町～戦国時代の古文書・古記録を幅広く調査し、日本刀の贈答に関する記事を収集・整理してデータベース化して分析する。さらに、中世刀鍛冶の総合データベースを活用し、贈答に用いられた日本刀の製作者(刀鍛冶)を明らかにする。その上で、時代的な変遷を考慮しつつ、室町～戦国時代に贈答に用いられた日本刀の実態と製作者である刀鍛冶の評価を解明する。

南北朝～室町時代の刀鍛冶について、中世刀剣書から関連する記事を抽出・翻刻してデータベース化する。南北朝～室町時代の刀鍛冶が製作した現存する日本刀(在銘刀剣)について、日本刀関係の書籍から収集・整理してデータベース化する。そして、中世刀剣書から作成した刀鍛冶データベースと現存する日本刀(在銘刀剣)から作成した刀鍛冶データベースを整理・統合し、南北朝～室町時代の刀鍛冶データベースを構築する。さらに、構築している平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースと統合して中世刀鍛冶の総合データベースへと進化させ、平安時代後期～室町時代の刀鍛冶の全体像を把握する。

3. 研究の方法

(1) 日本刀の贈答に関する古文書・古記録の調査・収集、データベース化

刊本史料集(編年史料集・県史史料編・市町村史史料編・個別史料集など)と未活字史料(写真帳・影写本など)を調査し、室町～戦国時代の古文書・古記録から日本刀の贈答に関する記事を抽出して収集・翻刻する。収集した記事を1件ずつ、刀鍛冶名・内容・贈答者に関する記載を入力してデータベース化する。

(2) 中世刀剣書の補足調査及び翻刻・校訂、データベース化作業

各機関に所蔵されている刀剣書を補足調査し、刀剣書の調査・収集及び翻刻・校正をする。収集した中世刀剣書から南北朝～室町時代の刀鍛冶の記事を抽出して翻刻し、1件ずつ刀鍛冶名・異称・作刀時期・作刀地域・流派に関する記載を入力してデータベース化する。

(3) 現存する日本刀(在銘刀剣)の調査・収集、データベース化

現存する日本刀(在銘刀剣)について、日本刀関係の書籍などを調査し、国指定品(国宝・重要文化財・重要美術品)及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会指定品(特別重要刀剣・重要刀剣)を中心に南北朝～室町時代の刀鍛冶が製作した日本刀(在銘刀剣)を抽出して収集する。収集した日本刀の情報を1件ずつ、銘文・刀鍛冶名・作刀時期・作刀地域・流派を入力してデータベース化する。

(4) 日本刀の贈答と製作者である刀鍛冶の評価に関する分析

室町～戦国時代の古文書・古記録から作成した日本刀の贈答に関するデータベース及び中世刀鍛冶の総合データベースを活用し、贈答に用いられた日本刀を製作した刀鍛冶及び日本刀が贈答品・美術品として関心を持たれていく過程などを解明する。

(5) 中世刀鍛冶の総合データベースの構築

中世刀剣書から作成した刀鍛冶データベースと現存する日本刀(在銘刀剣)から作成した刀鍛冶データベースを整理・統合し、南北朝～室町時代の刀鍛冶データベース(刀鍛冶名・作刀時期・

作刀地域・流派)を構築する。さらに、構築している平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースと統合して中世刀鍛冶の総合データベースへと進化させる。

4. 研究成果

(1) 日本刀の贈答に関する古文書・古記録の調査・収集、データベース化

九州産業大学図書館及び周辺大学の図書館などで刊本史料集(編年史料集・県史史料編・市町村史史料編・個別史料集など)を調査し、室町～戦国時代の古文書・古記録から日本刀の贈答に関する記事をコピーして収集した。さらに、東京大学史料編纂所などで未活字史料(室町～戦国時代の古文書・古記録の写真帳・影写本など)を調査し、日本刀の贈答に関する記事を複写・翻刻して収集した。収集作業の成果を基にして、贈答に用いられた日本刀をデータベース化(刀鍛冶名・内容・贈答者)した。

(2) 中世刀剣書の補足調査及び翻刻・校訂、データベース化作業

補足調査として、刀剣博物館、静嘉堂文庫、岩瀬文庫、東京都立中央図書館、国会図書館、東京大学史料編纂所、国文学資料館などに所蔵されている刀剣書を撮影・複写・コピー・翻刻して収集及び校正した。収集した中世刀剣書から、南北朝～室町時代の刀鍛冶に関する記事を抽出して翻刻作業を進めた。翻刻作業の成果を基にして、中世刀剣書に記載された南北朝～室町時代の刀鍛冶をデータベース化(刀鍛冶名・異称・作刀時期・作刀地域・流派)した。

収集した中世刀剣書については、1点ずつ史料学的な分析を加えて系統・成立年代などを検討した。その成果の一部として、新発見の日本最古の刀剣書(最古写本)である「龍造寺本銘尽」を分析した吉原弘道「銘尽(龍造寺本)」から見える中世刀剣書の成立とその受容 申状土代の裏に書写された現存最古の刀剣書」(『古文書研究』84、2018年)を発表した。これにより、「龍造寺本銘尽」・「観智院本銘尽」の祖本を鎌倉時代に成立した中世刀剣書であると位置づけることができた。

(3) 現存する日本刀(在銘刀剣)の調査・収集、データベース化

国指定の国宝・重要文化財・重要美術品については、『国宝刀剣図譜』1～16(岩波書店、1936年)、『増補改訂版 国宝8 工芸品3』(毎日新聞社、1984年)、『国宝・重要文化財大全6 工芸品下』(毎日新聞社、1999年)、『重要文化財27 工芸品』(毎日新聞社、1977年)、『新指定重要文化財 工芸品3』(毎日新聞社、1983年)、『日本刀重要美術品全集』1～8・別冊(青賞社、1985～1986年)などを調査し、南北朝～室町時代の刀鍛冶が製作した日本刀(在銘刀剣)を収集した。公益財団法人日本美術刀剣保存協会指定の特別重要刀剣・重要刀剣については、『特別重要刀剣等図譜』1～26(日本美術刀剣保存協会、1972～2021年)、『重要刀剣等図譜』1～67(日本美術刀剣保存協会、1958～2022年)、『重要刀剣等分類目録』古刀の部(日本美術刀剣保存協会、1999年)などを調査し、南北朝～室町時代の刀鍛冶が製作した日本刀(在銘刀剣)を収集した。収集作業の成果を基にして、南北朝～室町時代の現存する日本刀(在銘刀剣)をデータベース化(刀鍛冶名・作刀時期・作刀地域・流派)した。

(4) 日本刀の贈答と製作者である刀鍛冶の評価に関する分析

室町～戦国時代の古文書・古記録から抽出して作成した日本刀の贈答に関するデータベースを活用し、贈答に用いられた日本刀を製作した刀鍛冶及び日本刀が贈答品・美術品として関心を持たれていく過程などを解明した。その成果の一部は、吉原弘道「中世刀剣書から見た刀剣鑑定と名刀の変遷について」(2018年9月、七隈史学大会)として学会発表し、吉原弘道「中世刀剣書から探る“名刀”のすがた」(内藤直子・吉原弘道『もっと知りたい刀剣 名刀・刀装具・刀剣書』、東京美術、2018年)として発表した。

(5) 中世刀鍛冶の総合データベースの構築

中世刀剣書から作成した刀鍛冶データベースと現存する日本刀(在銘刀剣)から作成した刀鍛冶データベースを整理・統合し、「南北朝～室町時代の刀鍛冶データベース(刀鍛冶名・作刀時期・作刀地域・流派)」を構築した。さらに、南北朝～室町時代の刀鍛冶データベースと平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースを統合して「中世刀鍛冶の総合データベース(刀鍛冶名・作刀時期・作刀地域・流派)」へと進化させた。中世刀鍛冶の総合データベースの統合(名寄せ)作業では、同名の刀工を集めて1件ずつ、国が同じか、流派が同じか、時代が同じか、異称が同じか、記事内容に共通点があるかを比較検討して同一かどうかを判断した。その成果の一部として、構築した中世刀鍛冶の総合データベースを活用して刀鍛冶ごとに情報(中世刀剣書・古往来への記載有無、中世押形集への収録有無、現存する日本刀の有無)を一元化した刀鍛冶一覧を作成し、吉原弘道『平安～室町時代における刀鍛冶の基礎的研究 中世刀剣書を中心とした刀工一覧(稿)』(日本学術振興会科学研究費研究成果報告書)を刊行(自主出版)した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第12号
2. 論文標題 「往昔抄」の伝本と収録刀剣（二）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『九州産業大学基礎教育センター研究紀要』	6. 最初と最後の頁 65-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 -
2. 論文標題 「埋忠銘鑑」と埋忠家の系譜について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『埋忠<UMETADA>桃山刀剣界の雄』（大阪歴史博物館・刀剣博物館・読売新聞社・NHKエンタープライズ近畿）	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第11号
2. 論文標題 「往昔抄」の伝本と収録刀剣（一）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『九州産業大学基礎教育センター研究紀要』	6. 最初と最後の頁 73-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第9号
2. 論文標題 「銘尽（龍造寺本）」の復元と収録刀工	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『九州産業大学基礎研究センター研究紀要』	6. 最初と最後の頁 67-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第730号
2. 論文標題 「銘尽（観智院本）」の収録刀工（一）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 刀剣美術、（『九州産業大学基礎研究センター研究紀要』第4号掲載論文の再掲載）	6. 最初と最後の頁 4-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第731号
2. 論文標題 「銘尽（観智院本）」の収録刀工（二）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 刀剣美術、（『九州産業大学基礎研究センター研究紀要』第5号掲載論文の再掲載）	6. 最初と最後の頁 2-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第732号
2. 論文標題 「銘尽（観智院本）」の収録刀工（三）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 刀剣美術、（『九州産業大学基礎研究センター研究紀要』第5号掲載論文の再掲載）	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原弘道	4. 巻 第84号
2. 論文標題 「銘尽（龍造寺本）」から見える中世刀剣書の成立とその受容 申状土代の裏に書写された現存最古の刀剣書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 42-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉原弘道
2. 発表標題 中世刀剣書から見た刀剣鑑定と名刀の変遷について
3. 学会等名 七隈史学大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 吉原弘道	4. 発行年 2023年
2. 出版社 自主出版	5. 総ページ数 70
3. 書名 『平安～室町時代における刀鍛冶の基礎的研究 中世刀剣書を中心とした刀工一覧（稿）』	

1. 著者名 吉原弘道	4. 発行年 2021年
2. 出版社 読売新聞社	5. 総ページ数 217
3. 書名 埋忠刀譜	

1. 著者名 内藤直子、吉原弘道	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京美術	5. 総ページ数 80
3. 書名 もっと知りたい刀剣 名刀・刀装具・刀剣書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------